道徳・特活だより

あ　し　あ　と

～生徒の夢を現実にする学校をめざして～

Ｖｏｌ．４３
令和３年３月８日
上島町立弓削中学校

「ふるさと」とは・・～「旅立ち」を前に～

福井県坂井市に毎年日本一短い手紙のコンクール「一筆啓上賞」という事業を主宰している、丸岡文化財団という公益財団法人があります。毎年テーマを決めて作品を募集しており、今年度で第 28 回を数えます。最近は、海外からの応募も含め、毎年５万点を超える作品が寄せられているそうです。誰でも応募できますが、作品には未発表で、40 字以内の手紙形式のものという条件です。入賞作品を読んでいると、思わず涙が出そうになったり、吹き出しそうになったりするような秀作ぞろいです。

第６回の募集のテーマは「ふるさとへの想い」でした。51,000 点を超える応募作品の中に、次のような作品があったそうです。

「何もない　そう思ってた　あの場所に　全てがあったと　知る今日この頃」

この作品の作者は 17 歳の男性。おそらく、中学校卒業後、ふるさとを離れて進学するか、就職したのでしょう。中学生までの間は、生まれ育ったところは、何もないつまらない場所だと思っていたけれど、ふるさとを離れて生活していく中で、自分を育ててくれたふるさとのありがたさを思い浮かべているのではないでしょうか。

「ふるさと」への特別な思い

先日、弓削地区学校運営協議会が行われました。地域の代表や各種団体の中核になっている方が集まり、学校のために、また、子どもたちのためにできることは何かを一生懸命考えてくださいました。私たちの暮らすこの地域には、地域のために、子どもたちのために何かできないか、と考えてくださっている人が大勢います。総合的な学習の時間や学校行事に、たくさんの人が喜んで関わってくださっていることや、豪雨災害やコロナ禍の際にいち早く支援物資を届けてくださったことが、その一例です。

今、中学生の皆さんは、ふるさとに対する特別な思いは強くないかも知れません。しかし、やがて卒業し、進学や就職などふるさとを少し離れたり、遠くで暮らしたりする場合もあると思います。ふるさとは、仲間と一緒に夢を追いかけたり、勉強や運動に励んだり、友達関係に悩んだりした場所、家族や地域の人々とともに過ごした特別な場所です。遠く離れても発展を望み、何か力になりたいという思い、つながっていたいという思いを大切にしてほしいと思います。

「３月１１日」が近づいています　～大震災から１０年～

2011 年３月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、いわゆる東日本大震災から間もなく 10 年を迎えます。今なお、行方がわからない人や、避難などのため元の生活を取り戻せていない人がまだまだ大勢います。それでも、少しずつ復興が進み、地元で働けるのだったらと、20 代、30 代の人を中心に、ふるさとに戻って仕事に就く人が増えているそうです。災害に対する備えの大切さや、防災についての研究や対策の見直しなどが進みましたが、地震の発生そのものを防ぐことはできません。南海トラフ巨大地震の発生などが心配される今、皆さん自身や家庭の、災害への備えを確認する機会にしてください。